

1. 酪農経営診断分析結果の概要

(1) 家族労働力及び酪農従事者の構成

本年度は 6 事例で、経産牛飼養頭数が約 43 頭規模で家族人数は 3～7 人で平均 5 人の中で、家族労働人数は平均 2.8 人であった。

(2) 自給飼料生産面積

自給飼料作付け延べ面積の平均は 186a であった。

6 事例中 3 事例は購入飼料依存型の経営であった。県内の酪農は、規模拡大が進み飼料を外部に依存する経営体が多くなっている。

粗飼料の確保や環境保全対策が経営に大きな影響を及ぼすので、立地条件に則して自給飼料生産を第一義に置き、不足分を購入飼料で補う等の経営形態が望ましい。

今後は、気候変動、為替変動等外的要因で飼料費が変動し経営を圧迫してくる。自給飼料生産の重要性を今一度認識する必要がある。

(3) 飼養規模

経産牛常時飼養頭数は、平均 42.9 頭であった。

対象 6 事例中 4 事例が 40 頭未満の規模であり、県平均 73.8 頭(H22 畜産統計) から見て、今回の分析対象は小規模経営であった。

(4) 飼養管理技術（生産性）

1) 平均産次数

経産牛 1 頭当たりの平均産次数は、2.4 産であった。

個別に見ると 2.1 産から 3.0 産の開きがあるが、2 産前半が大半を占めている。

乳質の高さ、特に体細胞数の少ない牛乳が要求される現在の酪農では、平均産次数を延長していく事は難しいことであるが、供用年数の短縮に伴う更新牛の導入等は、経営に大きな負担を掛けることにもなるので、供用年数の延長〔3 産を目標〕を図り長命連産の安定した経営が実現できるよう飼養環境を整え健康な経産牛飼育を心掛けることが重要である。

2) 平均分娩間隔

経産牛 1 頭当たりの平均分娩間隔は、15.4 ヶ月であった。
年間産乳量の向上のためにも分娩間隔の短縮が重要な課題である。

ちなみに、年間平均分娩間隔が 12.5 ヶ月になれば泌乳ピーク
が高く年間産乳量が最も多いとされている。

酪農経営にとって分娩間隔の短縮は、搾乳量の向上による収入の
増加に直結して経営の安定に繋がる最も重要な要素である。

本年の事例では、最も良い分娩間隔で 14.2 ヶ月となっている。
平均分娩間隔の目標を当面 13.5 ヶ月にして飼養管理の徹底を図
ることが必要である。

3) 経産牛 1 頭当たりの年間産乳量

経産牛 1 頭当たりの年間産乳量は、8,746 kg であった。
事例間では、最少 7,621 kg から最多 9,678 kg と約 2,
000 kg の格差となっている。

現在の酪農経営では、購入飼料費が高く搾乳牛 1 頭あたり 1 日の
産乳量を 33 kg 以上、経産牛 1 頭当たりの年間産乳量で 9000
kg を目標として経営することが求められている。

4) 乳 質

年間の平均乳脂肪率は、3.81%、無脂固形分率は、8.75%、
細菌数は、4.20 万個、体細胞数は、24.74 万個の結果とな
っている。

体細胞数は、20 万以下を目標とすることが収入の増加につな
がる事となる。

5) 乳飼比

本年度の対象事例の乳飼比の平均は、58.1% となっている。
事例間では、48.5%~73.1% と 24.6% もの差が出てい
る。

これは、購入飼料の単価や、自給飼料生産面積の影響もあるが、
経産牛 1 頭当たりの年間産乳量が 2,057 kg も差があることに
要因がある。

経営の概要及び主な収益性・生産性の概要

		A	B	D	E	F	G	平均	
経営の概要	家族人数 (人)	5	5	6	3	7	4	5.0	
	家族労働人数 (人)	2	2	4	3	4	2	2.8	
	経産牛飼養頭数 (頭)	38.0	34.4	27.2	25.1	40.6	92.0	42.9	
	飼料生産延べ面積 (a)	350	160	604	0	0	0	186	
	年間総産乳量 (kg)	352,919	286,249	245,777	242,910	309,408	791,063	371,388	
	年間子牛販売頭数 (頭)	18	6	24	19	0	64	22	
収益性	家族労働力1人当たり年間経常所得 (千円)	1,547	-524	703	-69	1,623	3,825	1,184	
	経産牛1頭当たり年間経常所得 (円)	130,295	-44,134	99,998	-6,876	43,961	157,983	63,538	
	所得率 (%)	13.2	(5.5)	8.9	(0.7)	5.8	17.7	6.6	
	経産牛1頭当たり売上原価内訳	売上高 (円)	970,199	797,154	983,691	1,068,474	757,928	892,496	911,657
		内牛乳販売収入 (円)	930,907	786,807	835,480	969,797	757,928	813,461	849,063
		売上原価 (円)	910,891	850,451	1,032,914	1,127,997	597,155	699,299	869,785
		内もと畜費 (円)	0	0	0	0	0	0	0
		購入飼料費 (円)	505,280	470,355	456,247	567,197	554,394	394,488	491,327
		減価償却費 (円)	130,822	169,301	164,496	113,453	63,275	100,095	123,574
		労働費 (円)	182,454	167,558	307,472	212,809	54,187	89,978	169,076
生産性	経産牛1頭当たり年間産乳量 (kg)	9,287	8,321	8,970	9,678	7,621	8,599	8,746	
	平均分娩間隔 (ヶ月)	14.2	15.9	15.5	16.0	16.2	14.7	15.4	
	平均産次数 (産)	2.3	2.1	2.4	2.3	3.0	2.3	2.4	
	乳量1kg当たり平均乳価 (円)	100.23	94.55	93.14	100.21	99.45	94.60	97.03	
	平均乳脂率 (%)	3.82	3.91	3.73	3.79	3.73	3.89	3.81	
	平均無脂固形分率 (%)	8.77	8.92	8.83	8.66	8.47	8.85	8.75	
	平均細菌数 (万/ml)	5.16	3.16	5.58	3.58	3.57	4.17	4.20	
	平均体細胞数 (万/ml)	12.30	28.50	29.25	13.33	36.20	28.83	24.74	
	労働力1人当たり経産牛飼養頭数 (頭)	11.5	11.9	7.0	10.0	36.9	24.2	16.9	
	経産牛1頭当たり年間労働時間 (h)	174.3	167.6	286.4	198.3	54.1	81.5	160.4	
	経産牛1頭当たり飼料生産延べ面積 (a)	9.2	4.7	22.2	0.0	0.0	0.0	6.0	
乳飼比 (%)	54.3	59.8	54.6	58.5	73.1	48.5	58.1		